

July 2011 Vol.34

ウーラノス orphanos

会輝く

災害ボランティアとして、復興のための架け橋に

まつだ ゆうた
経営学部3年 松田 雄太さん

東日本大震災による津波の被害を目の当たりにし、「自分も何かしなければ」という一心で、大学の災害ボランティアステーションの運営スタッフとして活動しています。ボランティアは小学生の頃から経験していますが、今回は被害の甚大さから、実際に被災された方々の言葉の重みを痛感しています。特に子どもたちやお年寄りの皆さんの心のケアは大切だと思います。

災害ボランティアステーションでは、主に復興イベントの企画や他大学との連携などに関わっています。さまざまな活動を通じて、人とのつながりはますます広がりました。ボランティアは一人ではできないので、これからもみんなで力を合わせ、復興の兆しをつくるための架け橋になりたいです。



東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY



知恵や工夫を発揮して 復興への道を歩みましょう

仙台空襲という 辛い体験を乗り越えて

3月11日に東日本を襲った大震災。仙台と多賀城に3つのキャンパスがある本学でも大きな被害を受けましたが、地域の皆さんのご協力を得ながら、新入生を迎え入れ、新たな歩みを始めることができました。

大震災による被害を目の当たりにしたとき、私の脳裏をよぎったのは、昭和20年7月10日の仙台空襲です。その夜、まだ4歳半の幼子であった私が見たものは、一面にひびくB29の轟音につつまれた真赤な夜空でした。そして終戦直後に見たものは、まさに「瓦礫の町」と化した仙台の中心部でした。終戦直後は白いご飯さえ食べられなくなってしまふほど、人々の生活は困窮をきわめました。あのと時の空襲で焼け野原となった光景と今回の被災の状況が、私の中では符合してしまふのです。

大きな違いがあるとすれば、太平洋戦争が日本全土を疲弊させたのに対し、今回の大震災は東北沿岸部を中心としたエリアに壊滅的な被害をもたらしたことです。大津波に見舞われた地域の惨状は悪夢としか言いようがありませんが、被災地から離れた地域では、これまで通り21世紀の生活を享受しており大変なギャップがあります。

また、終戦直後の日本では、わが国の将来のことを決めるとき、何ごとにおいても連合軍総司令部 (GHQ) の意向に従わなければなりませんでしたが、今回の大震災では、私たち日本人が自らの知恵や工夫を発揮しながら復興への道を歩んでいくことができます。この違いは大きいと思います。

日本には敗戦から復興した歴史があります。仙台も空襲という辛い体験を乗り越えて、「杜の都」の名にふさわしい美しい街に生まれ変わりました。戦中戦後の仙台については、仙台市戦災復興記念館

に詳しい資料がありますので、ぜひ皆さんも足を運んで見ていただければと思います。

苦難や災難は 新しい神のみわざの始まり

新約聖書のヨハネによる福音書の言葉の中に、今後の私たちの歩みを示唆したものがあつたのでご紹介しましょう。

「イエスが道をとおつておられるとき、生まれつきの盲人を見られた。弟子たちはイエスに尋ねて言った。『先生、この人が生まれつき盲人なのは、だれが罪を犯したのですか。本人ですか、それともその両親ですか』。イエスは答へられた、『本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである』」(ヨハネ福音書9章1-3節)。

今回の大震災のような苦難や災難に直面したときは、単なる災害としてとらえるのではなく、私たちひとりひとりが努力を重ねて、献身的な働きをする機会だと考えられます。言い換えれば、苦難や災難は新しい神のみわざの始まりであることを聖書は教えているのです。こうした聖書の教えを創立の原点にしている東北学院としては、現在の困難を克服し、あらゆる形で努力を続けていくことが、神様から負託されている使命であろうと考えています。

同窓生のパワーを糧に、 「地の塩」としての歩みを

本学を含めた東北学院には、東北を中心に約16万人の同窓生がいます。宮城県や福島県、岩手県の沿岸部にも多くの同窓生がいて、まさに今回の震災は同窓会支部の拠点をも直撃しました。東北が復興し、地域社会が再生を成しとげるためには、東北学院に関係する皆さんが力を合わせて、努力を積み重ねていくことが



星宮 望
Nozomu HOSHIMIYA

重要です。

明治19年に創立した学校法人東北学院は、今年で創立125周年を迎えました。本学では、伝統と歴史の中で培ってきた同窓生のパワーを糧に、産学連携や地域教育支援など、さまざまな形で地域貢献活動を行っています。

地域の皆さんにお会いしていると、本当に多くの方から「東北学院大学の卒業生は信頼できる」というお話をいただきますが、私は卒業生の活躍こそが最大の地域貢献だと思っています。帝国データバンクの調査によると、東北に本社を置く会社の社長の出身大学は、本学が2位でした。これは実業界に進む人が多く、卒業生が東北一円で活躍している証でもあります。

本学の“今”があるのは、地域に支えられ、地域に育てられたおかげです。聖書の中に「地の塩」という言葉がありますが、塩というのは、それだけでは自己主張をせず、いつもまわりに溶け込んで料理を引き立てます。本学の卒業生も社



会の役に立つように、ひとりひとりが自分の持ち味をさらに発揮していくことを願っています。

東北には無限のポテンシャルがあります。どんな困難にも屈しないスピリットが息づいています。新たな可能性を追求しながら、今後の東北の復興を力強く支えていくこと、それこそが本学の大きな使命だと考えています。

地域社会の復興に向けて、一緒に歩みましょう。東北の未来のために。



いざという時のために、 水や非常食、毛布などを備蓄。

大きな災害に見舞われたときのことを想定して、本学では水や非常食(乾パン)、毛布、燃料などを各キャンパスの倉庫に備蓄しています。3月11日の大震災の直後も、自宅へ帰れずに学内に残った学生や、近隣から避難してきた一般の方のために役立てることができました。



もくじ Contents

明日に向かって / 地域社会の復興をめざして、東北学院大学災害ボランティアステーションが始動	3~4
情報フロントライン / 「地域貢献」を合言葉に、産学の連携を強化	5
先生ってこんな人 / 乙藤 岳志先生(教養学部) / 齊藤 康則先生(経済学部) / 土井 正晶先生(工学部)	6
キャンパスで聞きました! / 東北学院大学でなら頑張れる!	7
青春 ing / 体育会ライフル射撃部 / 写真部	8
TGU インフォメーション	9~10



地域社会の復興をめざして、東北学院大学災害ボランティアステーションが始動



災害ボランティアステーションの本部で運営スタッフを務める学生。学部や学科、学年の枠を超えた強い絆で結ばれています。



「企画はみんなで考えます」と話す運営スタッフ。全員が主役です。

3月11日の震災後、本学ではいち早く災害ボランティアステーションを立ち上げました。本学も被災大学ですが、地域社会の一員として、できる限りの対応をしていかなければならないと考えています。

災害ボランティアステーションの中心は学生です。ボランティアを希望する学生の登録から情報管理、復興イベントの企画・運営まで、運営スタッフを務める学生の熱い思いが原動力となっています。土樋キャンパスに続き、6月には泉キャンパスでも窓口を開設。これまで約1,000名（6月末現在）の学生が登録し、瓦礫・汚泥除去ボランティアや翻訳・学習支援ボランティア、子どもの遊び相手ボランティア、情報ボランティアなど、さまざまな形で活動を行っています。

大学間連携によるボランティア活動プロジェクトがスタート

災害ボランティアステーションでは、被災地で暮らす方々の思いを汲み取りながら、大学として支援できることを集めようという目的で、大学間連携によるボランティア活動プロジェクトをスタートさせました。

5月27日には、本学を会場に全国から10大学（関西学院大学・立命館大学・名古屋学院大学・中部学院大学・中央大学・青山学院大学・明治学院大学・麗澤大学・桜美林大学・東北学院大学）が集まり、結団式を行いました。今後は各大学が力を合わせて、日本の広域にわたる大学生間の災害復興ネットワークづくりをめざします*。



5月27日に本学で開催されたキックオフミーティング。

*7月15日現在、山形大学・西南学院大学を加えた12大学です。

◎災害ボランティアステーションの活動は、ホームページでもご覧になれます。

<http://step-tg.jp/volunteer/>

みんなで頑張りました!

災害ボランティアに参加した学生の声

石巻市



- ⇒自分ができることを頑張ろうと思い、主に清掃を行いました。作業が終了した後の「ありがとう」というひと言は、とてもうれしかったです。
- ⇒まだ多くの人が避難所において、困っている人がたくさんいます。自分のできることをしていかなければ、と感じました。
- ⇒街の復興を目標に、みんなが協力して頑張っている姿に勇気をもらいました。心から感謝したいです。



- ⇒子どもたちが元気で、逆に励まされました。一緒にプラモデルを作ったら、とても喜んでもらえました。
- ⇒避難所には家族を亡くした子どもたちもいました。今後は心のケアも必要だと感じました。
- ⇒関西学院大学の学生と一緒に音楽イベントに参加しましたが、関西学院大学の学生はコミュニケーションがとても上手なので、ぜひ見習いたいです。

多賀城市



- ⇒子どもたちの明るい笑顔が見られたので良かったです。とても充実していました。

- ⇒子どもたちの元気な姿を見ていたら、逆に元気をたくさんもらったような気がします。久しぶりに本気で遊びました。



- ⇒どんなことでも一緒にやれば、みんな仲良しになれるんだということを、子どもたちには教えてあげられたと思います。

仙台市 若林区



- ⇒汚泥の撤去作業は、思っていた以上にきつい仕事でした。だからこそ「若い力が必要なんだ」と痛感しました。

- ⇒たとえ小さな協力だとしても、実行に移すことの難しさと、感謝されたときの喜びを感じました。

- ⇒私にできることはほんのわずかですが、これから先、もっといろいろな場所へ行って手伝いたいです。
- ⇒ボランティアでおじゃましたお宅の方がとても親切で、作業のやり甲斐がありました。

名取市

- ⇒力仕事が多いので男手は必要ですが、家の中をきれいにするときは細やかな作業が中心になるので、女性の力も必要だと思いました。

- ⇒雑巾を縫う仕事を手伝いました。地味な作業でしたが、この雑巾を待ち望んでいる方がいると思ったら、自然に力が入りました。

ブルガリア共和国駐日大使 被災地の音楽慰問・ミニライブをコーディネート

5月25日(水)、ブルガリア共和国駐日大使リュボミル・トドロフ氏と世界的なブルガリアの国民的歌手ヴァリヤ・バルカンスカ氏が、本学の災害ボランティアステーションを激励するために訪問されました。本学の理事長・学長と懇談し、被災学生との交流を終えた後、大使一行は被災地である東松島市の鳴瀬第一・第二中学校を訪れました。被災した生徒たちを励ますミニコンサートの開催では、本学ボランティアステーションが活躍しました。



亘理町

- ⇒映像で見ていたのと違って、実際の被害の大きさにはショックを受けました。自分一人の力でも役に立てることがわかったので、これからも続けたいです。

- ⇒最初に見たときは「片付くはずがない」と思いましたが、みんなで力を合わせたら、



- 家の中の床がきれいになりました。ゴールは必ず見えてくると思います。

「地域貢献」を合言葉に、 産学の連携を強化

産学の連携を柱に、地域に密着した貢献活動を行っている東北学院大学。本学では、河北新報社や仙台商工会議所との連携を強化することで、地域との信頼の絆をさらに深めています。



◎河北新報社との連携に関する基本合意書調印式

5月20日(金)、土樋キャンパスで河北新報社との連携に関する基本合意書調印式が行われました。これは本学と河北新報社が、東日本大震災から立ち上がる東北の人々を支援し、地域の復興と創生に向けた協働の事業を構築しようというものです。平成23年度は「震災からの復興創生」をテーマに、新聞を通じた地域力向上プロジェクトと、新聞を活用した人材育成プロジェクトを軸にした連携事業を展開していきます。

新聞を通じた地域力向上プロジェクトでは、「震災復興」をテーマにした座談会の開催と紙面づくりに取り組む予定です。また、新聞を活用した人材育成プロジェクトとしては、本学の災害ボランティアステーションと河北新報社のコミュニティーサイト「ふらっと」の機能を生かした情報ボランティア・ネットワークづくり、東北学院中高大の一貫教育体制づくりでの連携と個別の授業展開、NIE*の進展に向けた研究協力などに取り組むことになっています。

*Newspaper in Educationの略で、学校などで新聞を教材として活用すること。



調印後に固い握手を交わす河北新報社の一力雅彦代表取締役社長(写真左)と本学の星宮望学長(同右)。



◎仙台商工会議所との包括連携に関する協定締結式

6月22日(水)、仙台商工会議所との包括連携協定を結ぶ締結式が仙台商工会議所で行われました。これは本学と仙台商工会議所が、包括的な連携のもとで相互に協力しながら、地域の振興と地域社会の発展、人材の育成、学術の振興などに寄与しようというものです。今後は仙台・東北の経済の発展や地域の活性化、教育・文化の振興、国際化・国際交流の推進など、さまざまな形で協力関係を強化していきます。学生参加型による産業・観光の振興や、学生参加型の地域づくり・まちづくり・伝統行事など、学生の可能性を引き出す絶好の機会にもなります。

仙台商工会議所で行われた締結式では、仙台商工会議所の鎌田宏会頭と、本学の星宮望学長が協定書に調印しました。産学の総力を結集することは、震災からの復興に向けた一つの大きな力になっていくはずで



締結式に臨む仙台商工会議所の鎌田宏会頭(写真左)と本学の星宮望学長(同右)。



先生ってこんな人

パソコンを楽しむ



おとふじ たけし
乙藤 岳志 先生

教養学部

もともと専門は物理学ですが、必要に迫られてパソコンを使っているうちに、のめり込んでしまいました。「ミイラ取りがミイラになる」とでも言ったらいいいのか、今では仕事も趣味もパソコン一筋です。

モットーとしては、おもしろいことしかやりません。フリーのソフトウェアを組み合わせながら、パソコンを使いやすく、“自分仕様”にアレンジするのが好きですね。休日は「もっとおもしろいソフトにするには、どうすればいいんだろう?」と、ぼんやり考えるのが好きです。最近ではジョギングをしながら、新しいアイデアを練ったりもしています。

自分なりにコントロールできるのは、パソコンの大きな魅力です。学生にもよく話していますが、「お金がないなら知恵を出せ」を合言葉に、これからもパソコンライフを楽しみたいですね。

(担当科目/ネットワーク構築論)



愛用のマシン。自分の小遣いの範囲内で楽しむことを心がけています。

近場を散策



さいとう やすのり
齊藤 康則 先生

経済学部

今年の4月、本学の共生社会経済学科に異動してきました。震災の影響もあって、まだそれほど多くは出かけていないのですが、車に乗って近場のおもしろそうなところを訪ねるのが好きです。

仙台で暮らすようになってから、作並温泉や定義山、蔵王、山寺など、何力所か見て回りましたが、ちょっと足を伸ばすだけで、四季折々の自然が広がっているのは大きな魅力だと思います。地元のグルメを味わったり、デジカメで写真を撮ったり、行く先々で自由気ままなひとときを楽しんでいます。

音楽が好きなので、移動中はよくCDを聴いています。なかでもサザンオールスターズやビリー・ジョエルは大のお気に入り。音楽やグルメ、写真などと一緒に、これからも自分流の小さな旅を楽しみたいです。

(担当科目/市民活動論)



天候や時間で水の色が変化する御釜はお気に入りスポットの一つ。

版画の年賀状



どい まさあき
土井 正品 先生

工学部

毎年、年賀状には手作りの版画をあしらっています。別に版画が趣味というほどではないのですが、ふだん会えない方への挨拶代わりとして、一年に一度だけチャレンジしています。

版画の年賀状にこだわるようになってから、もう18年ほどになります。例えば寅年だったら「奥羽の隻眼の虎」と呼ばれる伊達政宗公のように、その年の干支をモチーフにしながら、ちょっとひねりを加えた絵柄を考えるようにしています。実際に作る時は、家族にも手伝ってもらっているので、まさにわが家の一年の締めくくりでもあります。

素朴な雰囲気をかもし出し、一枚一枚が違った表情をのぞかせるのは、版画の大きな魅力だと思います。なかには毎年楽しみにしてくれている方もいるので、これからもぜひ続けたいですね。

(担当科目/電子工学基礎論)



作品には、主にゴム版画や木版画を使用。

キャンパスで聞きました!

今回のテーマ

東北学院大学でなら頑張れる!

一つのテーマに対して、みんなはどう思っているのか、キャンパス内の声を集めたこのコーナー。今回は「東北学院大学でなら頑張れる!」をテーマに聞いてみました。



震災後は、学生のことを第一に考えてもらえました。友達の輪がどんどん広がるのは、学院大の大きな魅力です。

3年生・谷藤さん

ゼミの先生が学生のことをとても大切にしてくれます。先生の頑張りが伝わってきて、自分も「よし、頑張ろう!」という気持ちに。

3年生・浦山さん

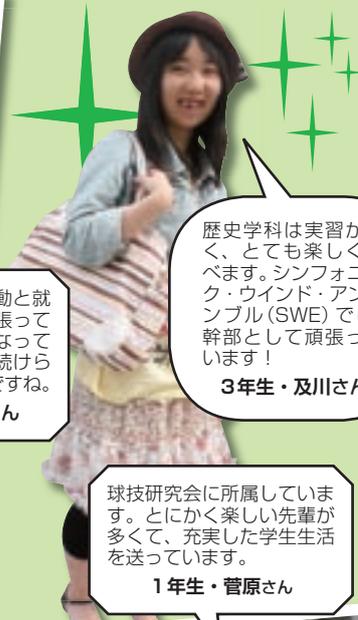


クラブ連合会ヨット部に所属し、勉強と部活動を両立しています。一緒に頑張れる部員を募集中です!!

3年生・伊藤さん

勉強とサークル活動と就職活動の3つを頑張っています。4年生になってもサークル活動が続けられるのはうれしいですね。

4年生・小野さん



歴史学科は実習が多く、とても楽しく学べます。シンフォニック・ウインド・アンサンブル(SWE)では、幹部として頑張っています!

3年生・及川さん

球技研究会に所属しています。とにかく楽しい先輩が多くて、充実した学生生活を送っています。

1年生・菅原さん



有志が集まって、災害ボランティアの活動をしています。ただ今、一緒に活動してくれるメンバーを募集中です!!

2年生・工藤さん、2年生・工藤さん

しっかりと単位が取れるように、ふだんの勉強を頑張るつもりです。

2年生・河原さん



専門的な学びが多く、やり甲斐があります。大学では将来につながる知識をたくさん身に付けたいです。

1年生・奥山さん



春季議事運営委員会の活動に燃えています。同じ目的を持つ仲間に出会って、みんなやる気満々です!

3年生・横山さん



陸上競技部では、選手と兼任で主務の仕事をしています。去年は全日本大学駅伝対抗選手権大会で7区を走りました。

4年生・長谷さん



環境建設工学科で学んでいることを、宮城や東北の未来のために活かしたいです。

2年生・中鉢さん

卒業生が多く、就職活動では縦のつながりが活かせます。ゼミの先生も親身になって相談にのってくれるので、本当に心強いです。

4年生・田ノ上さん



震災からの復興のために、ぜひ工学部での学びを役立てたいですね。

2年生・大高さん

皆様のご意見をお待ちしております。

編集室では「東北学院大学でなら頑張れる!」というキーワードにちなみ、読者の皆さんからのご意見やご感想を募集中です。ご応募は、住所・氏名・連絡先をご記入のうえ、下記のメールアドレスあてにお送りください。

E-mail: uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp



もうすぐ創部50周年を迎えるという体育会ライフル射撃部。

ライフル射撃は 自分との闘い

——— 体育会ライフル射撃部

小さな的に狙いを定めて、一発もはずせない。そんな緊張感が漲る中、泉キャンパスのエアライフル射撃場や石巻市にある宮城県ライフル射撃場で、本番さながらの練習を積んでいるのが、体育会ライフル射撃部です。部員は総勢14名。ほぼ半数の部員は、大学に入ってからライフル射撃を始めました。

「ライフル射撃は、まさに自分との闘いです」と声を揃えるのは、主将を務める高橋翔太さんと、主務を務める北山洋樹さんです。数ミリのずれが、大きなずれになってしまうので、冷静さが何よりも大切とか。最終的には社会に通用する人材の育成をめざしているため、部員たちのマナーや言葉遣いには人一倍気を遣っているそうです。現在、所属している関東学生ライフル射撃連盟では上位進出が目標です。



主将の高橋翔太さん(経済学部3年、写真左)と、主務の北山洋樹さん(文学部3年、写真右)。手に持っているのがライフル射撃的のです。



アットホームな雰囲気の中、 一人ひとりが個性を発揮

——— 写真部

「写真っておもしろそう」という理由で、入部してくる学生が多いという写真部。現在は45名ほどの大所帯で、意外なことに男子よりも女子の方が多いとか。自分の撮りたいものや、表現したいものを作品にして、年に3回、部員たちの発表の場として展示会を開催しています。ふだんは主にフィルムカメラを使って、現像やプリントも自分たちでこなします。

「アットホームな雰囲気の中、みんながみんな自分の個性を発揮しています」と語るのは、写真部の幹事を務める菊池聡さんです。「楽しそうな写真を見ると、楽しくなってくる。寂しそうな写真を見ていると、寂しくなってしまう。人間としての感覚が刺激されるのは、写真の大きな魅力だと思います」。いずれは他大学と合同で写真展を開くのが夢だそうです。

展示会は年3回開催。毎回多くの方が見に来てくれます。



幹事の菊池聡さん(経済学部3年)。「個人的には、静けさを感じてもらえるような写真を撮りたいですね。」

TGUインフォメーション

被災された学生や受験生を対象に、緊急の支援を実施しています

本学では東日本大震災で被災された学生や受験生に対して、下記のような支援を行っています。支援を受けるためには、それぞれ必要な条件があります。詳しくは、各課に問い合わせをするか、大学のホームページで確認してください。

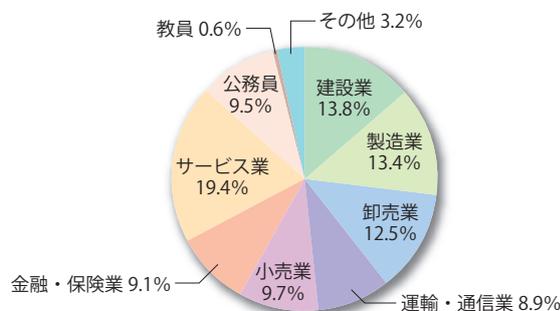
1. 被災された学生に対する授業料減免(学生課 TEL.022-264-6472)
⇒6月30日現在、895名の学生が申請を行いました。
2. 被災された学生に対する緊急給付奨学金(学生課 TEL.022-264-6472)
⇒7月15日現在、847名の学生が申請を行いました。
3. 被災された学生の就職活動交通費補助(就職課 TEL.022-264-6481)
4. 被災された受験生に対する入学検定料の免除(入試課 TEL.022-264-6455)
5. 被災された入学者に対する入学時特待生給付奨学金(入試課 TEL.022-264-6455)

さまざまな就職支援を通じて、学生一人ひとりの可能性をバックアップ

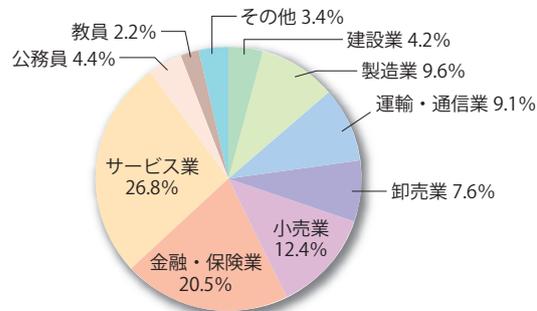
平成22年度の就職率を見てみると、文科系学部は74.6%(男子75.7%、女子73.1%)、工学部は83.8%(男子83.8%、女子84.6%)で、全学部では76.3%(男子77.9%、女子73.5%)でした。



業種別就職状況(全学部男子)



業種別就職状況(全学部女子)



大学新卒者の就職状況は依然として厳しい状況が続いていますが、本学では「就職に強い東北学院大学」と言ってもらえるように、さまざまな形で学生の就職活動をバックアップしています。学内にいながら多くの企業の担当者と面談できる学内合同企業説明会もその一つ。参加した学生からは「キャンパスで情報収集ができるのうれしい」「自分の希望する進路に向かって頑張りたい」などといった声が聞かれました。

進学相談会を各地で開催

今年も各地で進学相談会を開催しています。事前の申し込みは不要で、当日の参加もOKです。会場によっては11月まで開催していますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。詳しくは、大学のホームページをご覧ください。

東北学院創立125周年記念式を開催

5月14日(土)、土樋キャンパスを会場に「東北学院創立125周年記念式」が執り行われ、教職員や関係者など、約300名が参加しました。記念式の後、仙台市青葉区の北山墓地で校祖墓前礼拝が行われました。



北海学園大学との総合定期戦で本学が57連勝

6月24日(金)から26日(日)までの3日間、北海学園大学との総合定期戦が北海学園大学の主管で開催されました。総合結果は11対5で本学が勝利を飾り、これで通算成績は本学の57連勝となりました。なお、青山学院大学との総合定期戦は、本学の主管で9月に開催する予定です。



多賀城市との連携協力協定に基づく「地域市民のための大学公開講座」を開催

多賀城市との連携協力協定に基づく事業の一つとして、多賀城市とその近隣の市民を対象とした「平成23年度 地域市民のための大学公開講座」が5月18日(水)から7月6日(水)までの毎週水曜日、多賀城キャンパスで開催されました。メインテーマは「明るい未来のための文化と科学」で、多くの市民が本学の教員による講義に聴き入っていました。

ホームカミングデー (第12回同窓会) を開催します

全国に広がる同窓生のネットワークは、本学のかげがえのない財産です。懐かしい笑顔と再会するホームカミングデー(第12回同窓会)を10月15日(土)に開催します。詳しくは、東北学院同窓会(庶務部校友課 TEL.022-264-6468)までお問い合わせください。

日時	内容
10月15日(土) 13:00~17:30~	記念礼拝・記念式、TG中高大連携プロジェクト「キリストの十字架と復活を歌おう!」、鈴木俊光氏 & 志伯暁子氏によるトークライブ(土樋キャンパス) 懐かしい出会いの夕べ(江陽グランドホテル、会費制)

ジョン・V・ルース駐日米国大使が本学を来訪

6月27日(月)、ジョン・V・ルース駐日米国大使が本学を訪れました。これは本学の学生とラウンドテーブルを開きたいという大使の希望により実現したもので、日米の経済成長や震災中の体験など、活発なディスカッションが行われました。



図書館の一般開放が始まります

図書館では、9月20日(火)から一般利用の受付をスタートします。ご希望の方は、カウンターで利用者登録を行ってください。登録の際は、身分証明書が必要になります。詳しくは、各図書館までお問い合わせください。

- ◆中央図書館 TEL.022-264-6493
- ◆泉キャンパス図書館 TEL.022-375-1174
- ◆多賀城キャンパス図書館 TEL.022-368-1206

貴重な資料を守る文化財レスキュー

博物館では、被災地の文化財を救援・修復する文化財レスキューを行います。これは国からの要請を受けたもので、今後は歴史学科の実習の一環として行っていく予定です。7月1日(金)には、多くの被災文化財が被災地から博物館へ運び込まれました。



東北学院大学

■土樋キャンパス
 大学院：文学研究科、経済学研究科、経営学研究科
 法学研究科、法務研究科
 学 部：文学部・経済学部・経営学部・法学部(各3・4年)
 夜間主コース
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

■多賀城キャンパス
 大学院：工学研究科
 学 部：工学部
 〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
 TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

■泉キャンパス
 大学院：人間情報学研究科
 学 部：文学部・経済学部・経営学部・法学部(各1・2年)
 教養学部
 〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
 TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1
 TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
 TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
 TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」は「天」を意味するギリシャ語です。ヘブライ人への手紙11章16節は、アブラハムなど族長たちの信仰について「彼らは更にまざった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです」と記しています。この個所にも οὐρανός の語が用いられています。



ウーラノス
 東北学院大学
 広報誌 vol.34

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	柴田 良孝
副委員長	広報部長	宮城 光信
編集長	文学部教授	楠 義彦
委員	宗教部長	佐々木哲夫
	経済学部教授	白鳥 圭志
	経営学部准教授	松村 尚彦
	法学部教授	伊藤 一義
	工学部教授	斎藤 修
	教養学部准教授	山崎 冬太
	総務部長	日野 哲
	総務部次長	門脇 邦知
	広報部広報課長	折原 清
	広報部広報課長補佐	菱沼 高一
	広報部広報課	内海 睦夫
	広報部広報課	藁科 明宏

東北学院大学広報誌「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、7月20日・12月20日です。

発行日 2011(平成23年)7月20日
 編集 東北学院大学 広報誌編集委員会
 発行 東北学院大学
 〒980-8511
 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6423 FAX.022-264-6478
 URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>
 E-mail uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp



我ら卒業生

夢と希望を抱く大学



思い出の場所は、土樋キャンパスの本館裏。「満開の桜は見事でした」。

地元の私立大学に行くなら、東北学院大学へと思っていました。県内では一番規模が大きく、社会的に高く評価されていたことが大きな理由です。

学生時代は、よく友人と喫茶店で話し込みました。とりとめのない話が多かったですが、楽しいかけがえのない思い出です。当時の自分にとって、大学の礼拝は固いイメージがありましたが、今になって思えば、聖書の言葉と向き合える時間はとても貴重でした。

卒業後は、地元の大河原町役場に就職。やがて仙南地域の2市7町でつくる「えずこホール(仙南芸術文化センター)」の開館時に派遣され、その後、運営母体である「仙南地域広域行政事務組合」へと移籍しました。えずこホールは住民参加型文化創造施設をコンセプトに、各種プログラムを年間500本以上実施しています。アートを通して「世界に開かれた窓」になればと思っています。特に異文化体験プログラムには人間の

根幹を感じます。自分のやりたい仕事をしているという思いは強いですね。これからも地域の情報発信基地として、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

学生時代から好きだった音楽活動は今も続けています。「一期一会B.B.」「にーどる・わーくす」という2つのバンドを掛け持ちし、お店などでライブを行っています。大いに仕事をして、大いに遊ぶことも大切だと思っています。

在学生には「人生はあなたの思い描いた通りになる」という言葉を贈りたいです。大学では、自分の好きなことを本気で見つけて、本気で取り組むこと。自分の好きな分野であれば、苦労は感じないはず。東北学院大学は、学生の自由な気質をどんどん伸ばし、「夢と希望を抱く大学」であって欲しいですね。



えずこホール(仙南芸術文化センター)所長
 みとまさひこ
 水戸 雅彦さん

1979(昭和54)年文学部英文学科卒業。地元の大河原町役場に就職。現在は仙南地域の2市7町でつくる「えずこホール(仙南芸術文化センター)」の所長を務める。宮城県出身。

編集後記

本学は今年創立125周年を迎えました。この間、文字どおり地域のなかで育てられ、地域社会の一員として進んでまいりました。今後も東日本大震災で被災した地域の復興をはじめ、全力で地域貢献に努力していきたいと思っております。

5月の連休明けから始まった今年の授業もまもなく夏休みです。施設の補修と一部並行したなかでの授業のスタートでしたが、学生の学ぶ意欲の高さ、元気の良さに大いに励まされました。教育・研究機関として学生と共に学べる喜びをかみしめています。